



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

GCC：合同海軍、合同警察の設置の決定

12月9日、GCC 諸国はカタルのドーハで第35回 GCC 首脳会合を開催した。同会合後に発出された共同声明では、GCC 合同海軍の設置及び UAE に GCC 合同警察の本部を設置することで合意したことが発表された。各種報道によると、GCC 合同海軍はバハレーンに設置されるとのこと。

また、会合後には共同声明の他に、ドーハ宣言も発出された。同宣言は、「GCC 憲章の規定は、政治、経済、財政、貿易、農業、社会問題、保健などの分野で密接な協力関係を確立することを示している」とした上で、「(GCC は) 安全保障と安定の課題に直面しており、GCC 諸国間での共同行動を新たな段階で確立することが重要である」と表明した。

評価

今回の首脳会合は、事前にサウジアラビア・UAE・バハレーンとカタルとの間で対立があったことから、開催が危ぶまれるという見方もあった。しかし、11月の臨時首脳会合において手打ちになったことにより（詳細は「GCC：カタルからの大使召還問題の解決」『中東かわら版』No.183（2014年11月17日）を参照）、会合も無事に開催されることになった。

GCC 合同海軍、GCC 合同警察の設置が決定されたことは、国外・国内の脅威に関して GCC 各国の認識が共通化しつつあることを示していよう。先のカタルとの紛争に代表されるように、GCC 諸国の間では政治的・外交的な対立はありながらも、実務面での協力が進展している様子が見えてくる。

特に近年では、安全保障分野での協力関係の進展が目立つ。これまで GCC は、安全保障分野での協力は他の分野に比べると停滞していると見なされてきた。GCC が 1981 年に設立された背景には、1979 年のイラン・イスラーム革命、1980 年から始まったイラン・イラク戦争という地域の安全保障環境の不安定化という事情があったにも関わらず、各国間の脅威認識に大きな差があったため、GCC 憲章には「安全保障」という文言が入れられなかった。ドーハ宣言が指摘している「新たな段階」とは、今後 GCC が安全保障分野でも積極的に協力を進展させていくことを示していよう。もっとも、原則では合意しながらも、実質的な協力の進展となると具体的な動きが遅々として進まなくなるのがこれまでの GCC 諸国間関係であった。今回合意された合同海軍、合同警察の設置に関しても、実効性を有する機関が設立するまでには数年の時間を要するだろう。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799